



建物正面



屋上庭園からの眺望



安田庭園より建物裏側

院長のご近所探訪

～刀剣博物館～

平成30年1月に渋谷区代々木から両国駅徒歩7分の旧安田庭園の一角に移転されました。庭園散策や地域と連携する庭園博物館として、親しまれています。所蔵品には国宝や重要文化財もあり、歴史好きの皆様話題のスポットです。

自発能動

厳しい寒さを乗り越えて、桜の花びらが咲き誇る今日この頃、本年も新入職員を迎える4月が到来しました。真新しいスーツを纏ったフレッシュな新人に毎年新鮮な息吹を感じるのには私だけではないと思います。その反面、早く職場に慣れてもらい、一人前の社会人、セラピストに育てなければならないという責任感も感じております。

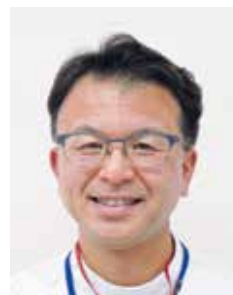
さて、皆さんが担当する患者さんは、病気や外傷により思ってもみなかった障害を抱えた方々です。患者さんが療法士に期待することは、元のような日常生活に戻るための機能回復であると思われます。そのために、患者さんのニーズに応えるために、知識・技術が高められるよう日々研鑽していかなくてはなりません。それぞれの部署で様々な教育システムをとっています。新人に1年間教育担当が付いて指導したり、ユニットで患者さんごとに担当を付けて教育したり、また、内外から講師を招いて専門教育をする部署など様々です。新入職員の方々に私が求めているのは、それらの環境を存分に活用し、知識を深め、技術を磨いていただきたいと思います。

しかし、そういった指導体制が整っていたとしても、決して受け身にならないでください。療法士として成長していくために、『自発能動』の姿勢で自分の課題に取り組んでください。壁にぶつかっても、様々な状況から問題を分析し解決策を考えてみてください。書籍・文献から、状況打開の糸口を見出してください。それでも解らない場合には先輩に相談してみましよう。新入職員が前向きな姿勢であれば、全身全霊で教えてくれます。そのようなことを繰り返す中で、自ら解決策を見出せる能力がついていくと思います。

臨床30年の私自身もつい先日若手に交じって世界的なインストラクターの研修会に参加し患者さんが良くなる姿を見て、技術向上への更なる努力を誓いました。

是非、自分が理想とする先生、先輩とのめぐり逢いを大切に、同僚と共に助け合い、多職種の方々から多くのことを学びながら日々精進してください。

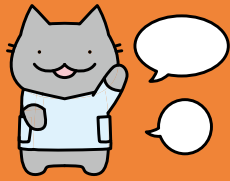
そして、担当する患者さん、ご家族との関係を大事にし、常に“傾聴する医療者”を心がけながら、良き臨床家に成長することを切に願います。



作業療法科 科長 倉持 昇

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。



失語症の リハビリテーションとは

失語症訓練ソフト「言語くん」



言語療法・心理科 科長 奥平 奈保子

失語症は脳損傷で脳の「言語野（げんごやー言葉をつかさどる領域）」が損傷された時に生じる、言葉を話す・聞く・読む・書く能力の障害です。多くの人は左大脳半球に言語野があるので、左半球損傷、右片麻痺に合併して生じることが多いのですが、身体に麻痺のない患者さん多いらしいです。

失語症のリハビリテーションは言語聴覚士が担当します。脳に適切で強力な言葉の刺激をくりかえし与え、病巣の周辺や反対側の脳から言葉に関する潜在能力を引き出そうと試みます。言語訓練では、単語や短文の理解・発話・書字、仮名や漢字の書字・音読、文章の読解、4コママンガのあらすじの作文、計算問題や算数の文章題など多様な課題を行います。

一言に失語症と言っても、その症状や重症度は患者さんによって千差万別です。ひとりひとりの障害メカニズムを推定し、それに合った課題や訓練方法を工夫することが、言語聴覚士に求められる技術です。手持ちの訓練教材の質や量も重要です。

当院の言語療法室では、平成2年の開院以来作成してきた豊富な訓練教材と、長年の経験にもとづく訓練技術の蓄積があり、失語症の回復期リハビリテーションにおいては都内でナンバーワンを自負しています。特に、復職をめざす比較的軽度の患者さんの訓練は、セラピストの技術の差が大きく出る部分であり、当院の得意として

いるところです。

また、パソコンで単語や短文の理解・発話の自主トレーニングができる失語症訓練ソフト「言語くん」や、音声での会話が困難な重度の患者さんが絵を指さして意思伝達するための「失語症会話ノート」を開発・市販し、当院だけでなく他施設の患者さんやスタッフに提供してきた実績もあります。

脳損傷の回復期は言語機能の回復にとってきわめて重要な時期です。これからもスタッフ一同、失語症の評価・訓練技術のスキルアップに励み、患者さんやご家族にとって頼れる専門職であるべく研鑽努力してまいりたいと考えております。



失語症会話ノート



失語症訓練の様子

エレベーター工事へのご協力ありがとうございました

皆さまに安全にご利用いただくため、平成30年1月20日から平成30年3月9日までエレベーター1号機の更新工事を実施しました。工事期間中は、患者さんをはじめ来院されている多くの方々にご不便とご迷惑をおかけしました。ご理解とご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。新しいエレベーターは、出入口ドア廻りセンサーや停電時のかご内閉じ込め防止装置などが追加され、より安全に安心してご利用いただけたと思います。また、来年はエレベーター2号機の更新工事を予定しており、皆さまにはご不便とご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



看護部の取組み Vol.2 ～あれ&これ～ご紹介

看護部長 竹下 礼子



今回は看護部が担当している三つのボランティア活動についてご紹介します。

一つ目はクリスマスコンサートでお馴染みの男性合唱団「NYMC JAPAN (ニューヨークメンズクワイヤー ジャパン)」です。団員の皆さんがニューヨークで仕事をされていたときに、この合唱団を結成したそうです。

以前当院に勤務されていた事務長との縁で、当院での活動は14年目になりました。昨年のクリスマスコンサートでも素晴らしい歌声を聞かせてくださいました。

二つ目は大泉落語研究会による病院寄席です。8年ほど前に当院に入院された患者さんからご紹介いただき活動されています。噺家の「楽しみ亭いっ笑」さん「花迫亭みみ寿」さん「多摩湖家遊歩」さんが都リハの高座から年に3回ほど楽しい演目を披露してくださっています。

三つ目は東京女子医科大学看護学部によるコーラスです。こちらは若い女性のコーラスグループです。

当院に臨床実習に来ている関係でボランティアの申し出がありました。春と夏にコンサートを行っており爽やかな歌声に癒やされます。

それぞれの活動はポスターでお知らせしていますが、当院のホームページでもお知らせしたいと思います。当日、ご自由に参加できます。

また、ボランティア活動を希望される方は、看護部までご連絡ください。お待ちしております。



第2回日本安全運転・医療研究会の開催

2018年1月21日(日曜日)に、千代田区の日経ホールにて「第2回日本安全運転・医療研究会～安心して交通社会に参加するために～」を開催いたしました。

昨年、北九州国際会議で行った第1回の研究会同様に、今回も大盛況でした。参加者は450人ほどであり、医療関係、自動車教習所、大学、企業、行政など様々な職域から多くの方に参加頂き、幅広い関心の高さを実感しました。この研究会は、我が国をリードする3研究会：「運転と認知機能研究会(代表：慶應義塾大学三村将教授)」、「障害者自動車運転研究会(代表：東京都リハビリテーション病院武原格リハビリテーション部長)」、「自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会(代表：産業医科大学佐伯覚教授)」が統合され2017年1月21日に発足しました。

今回は滋賀医科大学社会医学講座法医学部門教授の一杉正仁先生が会長を務められました。事務局は当院が担当し、当日は当院のスタッフ、他病院のリハビリ職など多くの方々にお手伝いをして頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

第2回研究会では、「安心して交通社会に参加するために」というテーマのもと、共生と職場復帰を2大柱とし、特別講演では内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官の金子健様、労働者安全機構理事長の有賀徹先生にお願い致しました。そのほか、5題の教育講演、17題の口頭発表、49題のポスター発表(当院OT科渡邊志保美が「JAFの危険予知・事故回避トレーニングの健常者での検討」で発表)と、多くの講演や研究発表があり、充実した一日でした。

最後に本研究会の開催にあたり、内閣府、厚生労働省、警察庁交通局、東京都、日本医師会、東京都医師会、日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本交通科学学会より後援を賜り厚く御礼申し上げます。



ご近所ネットワーク

～地域の支え合いによる介護予防を目指して～

はなみずき高齢者支援総合センター 主任 福岡 正 淑

墨田区には、高齢者支援総合センター（地域包括支援センター）が8か所あり、北部に位置するはなみずき高齢者支援総合センターの担当地域は、八広・東墨田です。

高齢者支援総合センターでは、介護保険サービス、介護予防や権利擁護など、地域の高齢者が生活していく上での困りごとや悩み事などを総合的に受け、専門的な知識を持った社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師等が本人や家族と相談しながら必要な支援に繋がっています。

また、生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員も配置され、地域及び関係機関とのネットワーク構築に向けた取り組みや、認知症サポーター養成講座の開催、もの忘れ・認知症相談など認知症に関する相談も受け付けています。

墨田区では、平成28年から「地域リハビリテーション活動支援事業」として、高齢者支援総合センターとOT・PT・STのリハビリテーションの専門職（以下リハ職）が連携しながら、住民運営の通いの場・通所・訪問・地域ケア会議などに定期的に関わり、介護予防の取り組みを推進しています。

そこで、リハ職とはなみずき高齢者支援総合センターが連携して取り組んだ住民主体の活動等をご紹介します。

①「そんぽ会」はサービス付き高齢者向け住宅の食堂をお借りして、地域住民と施設入所者が一緒に体操を行っているところが特徴です。介護予防の重要性についてリハ職から地域住民に説明会を開催したことがきっかけとなり、現在月2回の運営を地域住民が担っています。体操の指導は区の研修を受講した介護予防サポーターが行っています。



②老人クラブ「ひまわりクラブ」では、クラブのメンバーがリハ職から体操を学び、参加者に体操の指導を行っているところが特徴です。体力測定の方法についてもクラブのメンバーが担えるよう、リハ職から説明を行っています。



③リハ職が作成した体操のDVDをグループホーム「はなまるホーム八広」の入所者の方に利用していただく取り組みも進めています。



④はなみずきが担当している八広・東墨田にある6か所の体操自主グループのリーダーさんに集まって頂き、「自主グループ連絡会」を開催しました。連絡会では、継続した運営に向けて各グループの特色や運営上の課題について情報を共有する機会となりました。



⑤三輪里稻荷神社の社務所をお借りして認知症状の有無に関係なく、介護をしているご家族の方が集い、お茶を飲んでお話しする場「こんにゃく茶屋」がはじまりました。運営は民生委員が担い、傾聴ボランティアの「きき耳すみだ」の方にもご協力をお願いしています。毎回20名前後の方が参加され、楽しいひとときを過ごされています。



①～⑤の活動に見られるような地域の支え合い活動を通して、今後もリハ職の皆さまと一緒に地域の介護予防を推進していきたいと考えています。

高校1年生に課外授業をしてきました！

はなみずき高齢者支援総合センターからの依頼により、当院理学療法士3名、作業療法士2名が都立日本橋高等学校へ訪問し、約200名の1年生を対象に理学療法・作業療法等の紹介と高齢者キットを使用した片麻痺体験、コミュニケーションについての授業を行いました。

体験内容は重いサポーターやジャケットを半身だけに装着することで片麻痺者の身体の動きにくさを感じ、体験者と介助者でペアになり教室を歩いてもらいました。この体験をした生徒さんからは「こんなに大変だとは思わなかった」「サポートも大変」などの感想がありました。

その他、私達が日頃患者さんと関わる際に、大切にしているコミュニケーションについて講義を行いました。将来、社会に出たときにどの職業についても人との関わりは大切であり、高校生活での部活や行事等の場面でコミュニケーション能力を養って欲

しいことを伝えました。

高校生にとってリハビリテーションは、イメージがわきにくいとは思いましたが、授業を真剣に聞いている姿が印象的でした。リハビリテーションとは、ただ身体機能の回復を図るものではなく、その後の社会復帰までを見据えたものであることを知ってもらえたと感じました。

この授業を通し、地域で暮らす一員として何ができるのかを考えるきっかけにして貰えたらと思います。また、高校生に限らず地域の方々と共に支え合う社会づくりを目指し、身近なことから出来ることを見つけていてもらいたいと思います。

理学療法科 前原、川島、若旅
作業療法科 森下、蛭田



授業の様子





台湾在宅医療学会の研修生受入について

日時：平成30年2月8日（木）、9日（金）
（地域リハビリテーション科）

台湾では、2018年に高齢社会に突入し、2025年には超高齢社会となることが予想されていることから、在宅医療及び地域包括ケアの発展を促すために、昨年4月22日に台湾在宅医療学会が設立されたそうです。

そして、在宅医療や地域包括ケアシステム等、日本の仕組みについて学びたいとの台湾在宅医療学会の要望を受け、日本在宅ケアアライアンスが国立長寿医療研究センター在宅連携医療部の支援の下に20人の専門職の研修を受け入れることになり、その内3名を当院が担当することになりました。

当院に来院された研修生は、理学療法士のMaxさん、作業療法士のOliverさん、言語聴覚士のTinaさん、通訳のAyuさんです。（台湾では、自分の本名の他に、イングリッシュネームがあるそうです！）

研修当日は、日本の在宅医療および地域包括ケアシステムに関する地域システムの先進的な取り組みを学ぶため、当科スタッフとともに、墨田区高齢者支援総合センターや、訪問看護ステーションなどの施設見学もさせていただきました。1日半というとても短

い間でしたが、大変貴重な交流の時間となりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

《担当セラピストの感想》

- 台湾のリハ職の方々は、多職種協働のあり方を学ぼうと積極的に研修をされておりました。その姿は我々も学ぶべきところだと思いました。（OT齋藤）
- 日本と台湾での地域リハビリテーションへの思いが少し共有できました。皆さんとても優秀で、優しく思いやりのあふれる方々でした。勉強（英会話も）させていただきました。（OT大場）
- 非常に熱心に質問して下さり、海外のセラピスト状況についても学ぶ機会が出来て、大変有意義な時間となりました。（PT堀米）

《ご協力いただいた方より感想》

- 展示室を見学されていましたが、非常に熱心で質問も相次ぎ、時間が足りない位でした。（うめわか高齢者支援総合センターさんより）



台湾研修生との記念撮影



うめわか高齢者支援総合センターでの研修の様子

区東部地域リハビリテーション支援センター 研修会 開催予定

①「リハビリテーション医学の進歩」

講師 順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 主任教授 藤原 俊之 氏

対象者 都内の医療・福祉・保健・介護・行政の従事者等

日時 平成30年4月25日（水）19:00～20:30 会場 公益社団法人 東京都医師会 定員 200名

費用 無料 申込み ウェブ、FAX、電話（03-3616-8622）で受付可能、詳細は当院ホームページ又はQRコードよりご確認ください。

※参加には事前のお申込みが必要です。開催日が近くなりましたら、近隣の関係施設様へのご案内をFAXにて通知いたします。開催通知をご希望される場合やお問い合わせがある場合は、区東部地域リハビリテーション支援センター事務局（TEL:03-3616-8600 内線376）までご連絡下さい。

詳細や申込みはこちらから



おもしろ体験記

Vol.5

なんちゃって
熊野詣



正月明けにいきなり友人から「熊野本宮が創建2050年だから行かない？」と誘われ、一度熊野古道を歩きたいと思っていたので行くことにしました。熊野＝滝と思っていましたが、今回は熊野本宮なので滝のある那智大社方面には行けませんでした。1泊では難しい、熊野三山を全て回るのは無理です。せっかくだから熊野古道も歩きたいです。歩いて回るなら2泊は必要のようです。

今回は新宮からバスで1時間の本宮まで行って、更にバスで15分の発心門王子まで行って、熊野古道を歩いて本宮に戻りました。昼休憩を入れて3時間くらいかかりました。熊野古道には険しい道もあるらしいのですが、今回歩いた場所は歩きやすい道でした。世界遺産なので人が多いのかな、と思っていましたが、

そんなこともなくマイペースで歩けました。こんな冬の寒い時期に行く人も少ないということでしょうか。

思いがけず観光案内所で「熊野古道中辺路押印帳」というものを手に入れ、今回の旅行で9個スタンプを集めました。36個集める押印帳なのであと27個、那智大社にも行きたいからまた行かないと。計画的ではないからか、途中で沈没してしまうからか、いつも中途半端になってしまいます。高野山の町石道、奈良の柳生街道も半分残っています。熊野もやり残してしまいました。

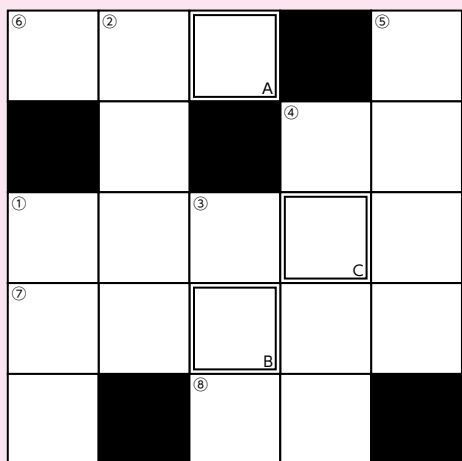
友人の今回の目的は限定2050冊の記念御朱印帳を手に入れることでした。もう売り切れて無いですか？、と言っていたのですが、まだ残っていたのです。行ってみないとわからないものですね。

栄養科主査 渡辺真紀

ほっとりハ

クロスワード Vol.10

ヒントをもとにマス目を埋め、
二重マスの文字をつなげてください



タテのかぎ

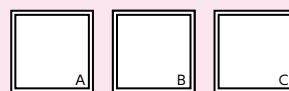
- ①島崎藤村の長編小説
- ②山や海などで災難に遭遇すること
- ③目の蓋、眼瞼(がんけん)ともいう
- ④啄木鳥、英語ではウッドペッカー
- ⑤芸術家などが仕事を行う専用の作業場

ヨコのかぎ

- ①釈迦の生誕の日、日本では4月8日
- ④帰り道
- ⑥その場のしぎのこと。「○○○な手段」
- ⑦仏像を濯沐する仏教の儀式、ヨコ①と同じ
- ⑧河川に出来た河床の段

ヒント
春の彼岸は「ぼたもち」

答え：



前号の答え

ハ オ リ

多数のご応募ありがとうございました

【応募方法】 はがきに①答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤ご意見、ご感想をお書きのうえ、次の応募先へお送りください。正解者の中から抽選で10名様にQUOカードをプレゼントいたします。

【締切】 平成30年5月1日(火) 当日消印有効
※正解は次号に掲載いたします

【応募先】 〒131-0034 東京都墨田区堤通2丁目14番1号
東京都リハビリテーション病院 ほっとりハ編集部係宛

専門・認定看護師 7名 (常勤正看護師93名中)

専門 慢性疾患看護 1名
認定 脳卒中リハビリテーション看護 3名
 摂食・嚥下障害看護 1名
 皮膚・排泄ケア 1名、訪問看護 1名



経歴 豊富な常勤正看護師 93名

20年以上	15～19年	10～14年	5～9年	5年未満
33名	19名	14名	14名	13名

※平成30年3月時点



非公認キャラリハにやんが行く!
都リハ病院
いいとこメカネ その3
凄腕看護師編

認定看護師になるには
 養成コースで
 半年ほど勉強して
 認定試験を受ける

●専門看護師
 指定の大学院を卒業する。
 ●認定看護師
 養成学校6カ月程度。
 (615時間以上)
 ※いずれも看護師資格が最低5年以上必要

たとえば、専門看護師になるには大学院で専門的な勉強をして受験をします!



じゃー、年配の看護師さんが多いってこと?
 やっぱ若い看護師さんがいいニヤ♡
 先生もそう思う...

ニャーるほど、看護師さんの仕事は専門や認定看護師がいることで患者さんにより満足や安心してもらえるんだニャー

今日もまた、都リハ病院のこと少し詳しくなったニャー



日々スペシャルな看護をしているんだよー



リハにやん君、都リハの専門・認定看護師等のエキスパートは支援チーム等を通じて専門知識・技術を駆使して自分でトイレに行けるように、自分で食事が食べられるように、歩いて帰れるように、

そんなエキスパートの看護師さんは何をしているんだニャ?



交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線



南千住	都営バス	10分	梅田二丁目	徒歩	2分
錦糸町	都営バス	25分	墨田二丁目	徒歩	4分
浅草	東京メトロ半蔵門線	12分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
亀戸	東武スカイツリーライン	10分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
北千住	東武亀戸線	20分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
京成上野駅	東武スカイツリーライン	5分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
	京成本線	12分	京成関屋駅	徒歩	15分

東京都リハビリテーション病院

東京都リハビリテーション病院
ほっとリハ

平成30年4月1日(日)発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会
 〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
 TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8699
<http://www.tokyo-reha.jp>

UD
 FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

編集
 後記

子供達のランドセルや新入職員の初々しい表情に春を感じ、「またひとつ先輩になってしまった…」と時の流れを痛感します。4月はスギ花粉症もほぼ終息し、絶好の行楽シーズンを迎えます。ここ20年 来行きたいと思っている「長野県 高遠の桜」。今年こそ、チャレンジしようと思いを馳せています。